

## 2021 年度 第 3 回理事会議事録

I. 会議名 : 2021 年度 (公社) 日本地すべり学会 第 3 回理事会

II. 開催日時 : 2021 年 11 月 26 日 (金) 14 時 30 分～16 時 30 分

III. 開催場所 : ハイブリッド開催 (会場+Web)

会場 航空会館 502 号室、

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-1 航空会館

<https://kokukaikan.com/access>

IV. 出席者 : 理事出席 14 名, 監事出席 1 名, その他 2 名

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
理事	浅野 志穂	○	理事	太田 英将	○	理事	富田 陽子	○
理事	石丸 聡	○	理事	加藤 猛士	×	理事	中里 裕臣	○
理事	岩橋 純子	○	理事	笹原 克夫	○	理事	中村 真也	×
理事	宇次原 雅之	○	理事	佐藤 剛	×	理事	平松 晋也	○
理事	榎田 充哉	○	理事	佐藤 浩	×	理事	藤井 俊逸	○
理事	大河原 正文	×	理事	柴崎 宣之	○	理事	渡部 直喜	○
理事	小山内 信智	×	理事	高山 陶子	○	(理事 14 名, 定足数 11 名)		

監事	今泉 文寿	○	監事	相楽 涉	×	(監事 1 名)		
----	-------	---	----	------	---	----------	--	--

事務局	鈴木 英則	—	—	(その他 2 名)				
ICL 委員 長	檜垣大助	—	—					

○理事会開始時における理事の出席数は 13 名。定足数 11 名 (理事の過半数) を満たし理事会は成立。

○平松会長は、審議事項-2 より出席 (出席理事 14 名)

○渡部理事は、審議事項-2 の途中で退席 (出席理事 13 名)

○議事録署名人は、平松会長、今泉監事

<議長あいさつ>

- ・平松会長より、列車遅延のため会場への到着が遅れるとの連絡があった。定款 36 条により平松会長が到着するまで、榎田副会長が議長を務めることとなった。
- ・平松会長に代わって榎田副会長が開会のあいさつを行った。

<議事録の確認>

浅野理事より、第2回 理事会 議事録の内容は理事へ確認済みであることを説明した。参考資料として資料添付した第2回 理事会 議事録についての確認が行われた。

I 審議事項

1. 2022・2023 年度役員候補者推薦委員と選挙管理委員の選任

柴崎理事より、資料に基づき役員候補者推薦委員、選挙管理委員の選任について説明が行われた後、執行部より役員候補者推薦委員、選挙管理委員の推薦が行われた。

【役員候補者推薦委員（敬称略）】

阿部 真郎（奥山ボーリング株式会社）

小俣 新重郎（日本工営株式会社）

櫻井 正明（株式会社山地防災研究所）

田近 淳（株式会社ドーコン）

千木良 雅弘（公益財団法人 深田地質研究所）

綱木 亮介（一般財団法人砂防・地すべり技術センター）

寺田 秀樹（国土防災技術株式会社）

檜垣 大助（弘前大学名誉教授）

【選挙管理委員（敬称略）】

内村 太郎（埼玉大学）

大場 勝一郎（日本工営株式会社）

加藤 誠章（福山市立大学）

小嶋 孝徳（国土防災技術株式会社）

鈴木 拓郎（（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）

田中 龍一（株式会社オサシ・テクノス）

土志田 正二（消防庁消防研究センター）

八反地 剛（筑波大学）

・理事からの意見はなかった。審議の結果、賛成 13 票，反対 0 票で承認された。

2. 地すべり学会アウトリーチ活動「メディアを意識した HP 改定」

藤井理事より、資料に基づいて以下の説明が行われた。

- ① メディアを意識したアウトリーチが必要で、このためにメディアを意識した地すべり学会のホームページに改定する必要がある。
- ② ホームページのコンテンツは、アウトリーチ活動で検討したい。

説明後の、質疑応答は、以下の通りである。

・ホームページの改定に当たっては、地すべりだけでなく土砂災害一般を扱った内容にして欲しい。また、マスコミ等の一般の人がわかりやすい解説を心掛けるとともに、ホームページを閲覧した人が、地すべり学会のどこへ質問を連絡したら良いかが分かるようにして欲しい。

⇒現状では、マスコミから事務局へ取材等の依頼があった場合は、解説委員が対応を行っている。支部への取材等の依頼の対応は、要検討だと考える。

・ホームページ改定に当たってのターゲットは誰を想定しているか。

⇒災害が発生すると、新聞社等のマスコミなどから事務局に連絡が来る。このためターゲットはマスコミが良いと思う。ホームページでは、マスコミ等の閲覧者が、ぱっと見てわかりやすい内容や表現が必要だと思う。

・ホームページをわかりやすくすることは、良いことだと思う。アウトリーチ活動から提案されたコンテンツは、そのボリュームが多いので、全てのコンテンツを作ることは多大な労力が必要である。ホームページを長期にわたって継続的に一般の方に閲覧してもらうには、新しい情報を適切に更新していく必要がある。

⇒優先順位を決めて改定していくことを想定している。更新の仕組みをつくることをも必要であると考えている。

⇒改定作業は、複数人数で行うことが重要と考える。

(議長を会長へ交代)

・ホームページのアクセス数を把握しているか

⇒アクセス数は定期的に調べていない。海外からのアクセスもあるようである。

⇒改定の効果を確認するためには、アクセス数を捉えていくことは重要である。

⇒アクセスログをとる場合は、ログをとっていることを公表しておくべきか。

⇒アクセラログをとることは、個人情報をとるわけではないので、問題はないと思う。

⇒アクセスログをとることは簡単にできるので、それを実践して欲しい。

・アウトリーチ活動とホームページの改定作業は分けるべきである。アウトリーチはホームページのコンテンツをつくることにしてはどうか。

⇒アウトリーチはコンテンツをつくる。ホームページの改定作業は総務部を中心に行う。

⇒現在、アウトリーチを考慮した地すべり学会のホームページのコンテンツは、「地すべりとは」の部分である。

⇒「地すべりとは」はなくさずに、土砂災害というキーワードを追加するようにしたい。

⇒メディアを意識したコンテンツとしては、「地すべりとは」のところに記載しておけば良い。

「地すべりとは」のところの一番下に地すべり学会の連絡先を記載しておけば、質問しやすくなると思う。

⇒質問のバナーは、あちこちに貼っておくこと、アピールする姿勢が必要である。  
⇒担当者に負担が集中しすぎて体を壊すことが無いよう、長続きできるように配慮して取組んで欲しい。

以上の議論より、今後の検討方針を、以下にまとめた。

- ① ホームページ改定に当たってのターゲットはマスコミとする。
- ② アウトリーチはホームページのコンテンツを検討する。ホームページの改定作業は優先順位を決めて行う。作業は総務部を中心に行う。
- ③ コンテンツ作成に当たっては、「地すべり」というキーワードは残し、土砂災害というキーワードを追加し、土砂移動現象全般を扱っている学会であることが分かるようにする。
- ④ これらのコンテンツは、「地すべりとは」の部分に記載すれば良い。
- ⑤ ホームページの閲覧者が質問しやすくなるよう、「地すべりとは」の部分の一番下を含めて、質問バナー（地すべり学会への連絡先）を複数個所に掲載しておく。
- ⑥ ホームページの改定の効果を確認できるよう、ホームページのログを記録する。

・上記①～⑥の検討方針を審議の結果、賛成 13 票、反対 0 票で承認された。

### 3. 入退会者状況

- ・鈴木事務局長より、資料に基づき地すべり学会への入退会状況についての説明が行われた。
- ・理事からの意見はなかった。
- ・審議の結果、入会者について賛成 13 票、反対 0 票で承認された。

### 4. 学会創立 60 周年記念事業（意見交換）

・浅野理事より、2023 年に学会創立 60 周年を迎えるに当たって、何か記念行事等を行うべきか等について議論を行って欲しいとの提案がなされた。ちなみに 50 周年では、年表とパンフレットを作って配布した。昨今の他に行った記念行事としては、地すべり学会が法人化したときに記念シンポジウムを行ったことがある。

議論は、以下の通りである。

- ・催しを行うことはアウトリーチとしては良いことだと考える。しかし、10 年毎に記念行事を行う必要はないと思う。研究発表会の中で 1 つのセッションを作ってはどうか。
- ⇒10 年毎に行うというのではなく、50 と 60 は日本人にとって節目の認識がある。70 周年に何かを行うことは特に考えていない。
- ⇒記念行事を行うのであれば 50 周年の次は 100 周年だろう。ただし、10 年毎に労力をかけない程度に、何かのイベントを習慣づけることは良いことだと思う。アウトリーチの観点を

考えると学会 60 周年をアピールすることは大事なことだと思う。

⇒10 年毎に研究発表会等で何かを行うことが良いのではないか。例えば、気候変動の影響を受けて、自然災害の被害の大きさが変わってきている。10 年間の災害を振り返って、過去 10 年間の土砂災害等のアーカイブができれば良いと考える。

⇒研究発表会かシンポジウムで、何か、振り返る方向性は必要である。

⇒次回の事業計画部会で説明して、方向性などを検討していきたい。

## 5. その他

特になし

## II 報告事項

### 1. 北海道大会実施報告

石丸理事より、資料に基づいて報告が行われた。主な報告事項は以下の通りである。

- ① 北海道大会の収入は 3,963 千円、支出 3,173 千円で 790 千円の黒字。資料の収支表では、大会申し込みシステムの管理を委託している(株)ジェイピーシーからの請求残金となる 154 千円が含まれている。(株)ジェイピーシーへ問い合わせしたところこの後、請求があることを確認したので、北海道大会収支は、理事会資料の通りが良い。

理事からの意見は、以下の通りである。

・北海道大会は、学会初めてのハイブリッド開催である。今後の会議形式のノウハウに活かして欲しい。

### 2. 第 5 回斜面防災国際フォーラム (WLF5) 開催と日本地すべり学会主催セッション

檜垣 ICL 委員長より、資料に基づいて、以下の説明が行われた。

- ① WLF5 では、感染症拡大防止を考慮して、オンサイト、オンライン、ビデオの 3 種類の発表形式で行われた。
- ② 外国人のオンサイトでの参加はなく、オンラインでの参加だった。
- ③ 現地見学会は中止となった。

・理事からの意見、質疑応答は特になかった。

### 3. Alexander Strom 先生による講演会実施報告

佐藤 (浩) 理事が欠席のため、資料に基づいて浅野理事が代理で報告した。

理事からの意見、質疑応答は特になかった。

#### 4. 地すべり・土石流災害調査報告会

笹原理事より、資料に基づいて、以下の説明が行われた。

- ① 開催日時：12月13日（月）13:30～16:15。
- ② 会議形式：オンライン形式
- ③ 話題提供数：4件、毎年、質疑応答が活発に行われているため話題提供は4件にした。
- ④ 申込メ切：12月6日、定員200名。定員に達した時点で申込は締め切る。

説明後に理事から出された意見・質疑応答は、以下の通りである。

・なぜ、定員は200名なのか。オンラインなので人数の制限は設けなくても良いように思う。

⇒例年は対面方式で実施し、その場合は定員を定めていることを意識した。対面方式が基本であることを暗に示したかった。

⇒契約しているシステムの仕様上の上限は300名である。

#### 5. 「地すべり学会 BIM/CIM ネットワーク」の始動

富田理事より、現在の活動状況について以下の説明が行われた。

- ① 9月17日にオーガナイザーによるキックオフミーティングを行った。
- ② 今後のBIM/CIMネットワークの活動内容の資となるようオーガナイザーおよびBIM/CIMネットワーク参加者へアンケートを行った。
- ③ アンケート結果によれば、CIMモデルを地すべり業務に適用する難易度は難しいあるいは中くらいと考えている人が多かった。BIM/CIMに関する情報が知りたい、BIM/CIMに関するスキルアップの場として使いたい等との意見があった。
- ④ 第1回BIM/CIMネットワーク開催は、12/14, 10:00～を予定している。

#### 6. その他

特になし

以上

議 長 平松 晋也 (印)

議事録署名人 今泉 文寿 (印)